

と 19.2%から、今回の調査では 16.9%と 6.2%へ、ドイツでは「診察時に待たされる」が第 5 回の調査の 25.1%から今回の調査では 13.6%へ、スウェーデンでは「費用が高い」「診察時に待たされる」がそれぞれ第 5 回の調査の 24.4%と 23.4%から今回の調査では 1.9%と 10.6%へとかなり減少していた。以上の結果は、多くの高齢者にとって問題であった項目のいくつかは、この 10 年間に事態がかなり改善されたことを物語っている。

表 7-3 主に利用している「医療サービス」への不満・問題点 (%)

	日本	韓国	アメリカ	ドイツ	スウェーデン
費用が高い	②12.4	①16.9	①29.9	②12.9	1.9
医師、看護師等の説明が足りない	③ 5.1	5.2	②14.3	③12.3	③5.3
施設が近くにない	4.4	②8.5	3.6	3.3	1.5
施設や設備が古い	0.4	1.7	1.6	1.0	0.9
手術等の日を待たされる	0.5	1.5	6.8	8.0	②8.8
診察の時に待たされる	①14.5	③6.2	③9.7	①13.6	①10.6
プライバシーが守られていない	0.6	0.3	1.9	1.6	0.2
医師、看護婦等の職員の対応や態度やよくない	1.7	1.1	3.1	4.2	2.8
十分な治療が受けられない	1.1	5.3	3.5	6.2	3.4
その他	1.0	0.7	1.5	1.0	6.1
特になし	50.2	60.1	49.8	46.2	59.2

注 1) 複数回答である

注 2) ①②③は、国別に回答割合が多い項目から順に 3 位までを示している。

IV 通所・在宅福祉サービス

1 分析の視点

介護態勢における介護サービスの位置づけ、福祉ニーズとサービス利用との関連、利用サービスの種類が国によってどのように異なるかを分析した。性や年齢階級による差、学歴や世帯類型による差については、サービス利用者が少ないため、ここでは分析しなかった。なお、分析に際しては「無回答」を欠測値として除いたため、数値が「第 2 部 調査結果の概要」の数値と異なっている場合がある。

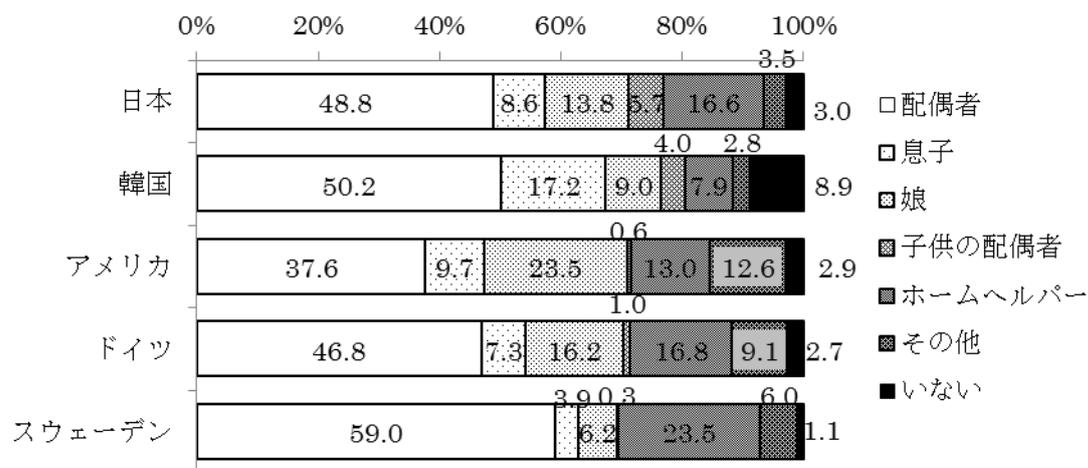
2 介護態勢における介護サービスの位置づけ(図 7-34)

身体的に虚弱になり、在宅で生活する上で誰かの介護が必要になった場合に、主にどのような人の世話になるかを質問した。「配偶者・パートナー」「息子」「娘」「子供の配偶者」という家族による介護を選択する人の割合が 7~8 割を占めるという点では 5 カ国に共通

していた。しかし、続柄別の構成割合は国によって違いがみられた。アメリカ、ドイツ、日本では「配偶者・パートナー」に次いで「娘」（各 23.5%、16.2%、13.8%）が、韓国では「配偶者・パートナー」に次いで「息子」（17.2%、他の4か国ではすべて10%未満）が多かった。スウェーデンについては「配偶者・パートナー」が圧倒的に多く、他の続柄の割合は合計でも10%程度だった。

家族以外では、「ホームヘルパーなどの介護を専門とする人」が多くを占めていた。その割合は国によって違いがあり、スウェーデンの23.5%をトップに、ドイツ、日本、アメリカが15%程度と続いていた。韓国は7.9%であり、専門家による介護の割合が最も低い国であった。しかし、5年前の第6回調査ではこの割合が1.8%であったことから、この5年間に専門家による介護を受け入れる人の割合がかなり拡大したことになる。さらに、国によって差が大きかった選択肢は「いない」であり、韓国では8.9%を占めていたが、それ以外の国では5%未満であった。

図 7-34 身体的に虚弱になったときの在宅における介護態勢



3 サービス利用

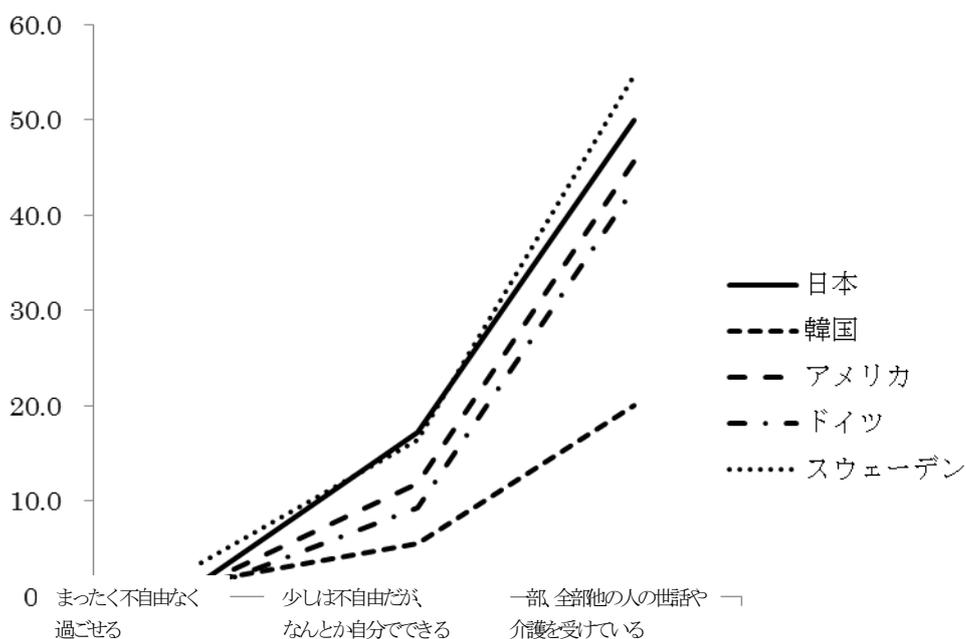
1) 自立度による差 (図 7-35)

福祉ニーズの多寡が、福祉サービスの利用とどのように関連しているかを観察した。いずれの国においても、自立度が低下するほど福祉サービスの利用割合が増加する傾向がみられたものの、その増加傾向は国によって異なっていた。サービスの利用割合は日本とスウェーデンでは、「まったく不自由なし」の人では5%未満、「少し不自由だが何とかでき

る」の人では 20%程度、「一部あるいは全部他の人の世話や介護を受けている」の人では 50%程度あった。ドイツとアメリカではそれぞれの値が 1%程度、10%程度、40%程度、韓国では 2%程度、5%程度、20%程度と、特に韓国では、自立度の低下に伴うサービスの増加傾向が低かった。

日本の場合、2005 年の第 6 回調査では、「一部あるいは全面的にほかの人の世話や介護を受けている」という人のサービス利用割合は 62.1%で、むしろ今回の調査の方がサービスの利用割合が低かった。「少し不自由だが何とかできる」の人ではサービスの利用割合は 19.6%と今回の調査の 17.2%とほとんど差がなかった。今回の調査は、介護保険制度が導入されてから 10 年経過した時点で行われたが、生活自立度に中程度の障害がある人の間では、この 5 年間でみると介護サービスの利用が促進されているとはいえない。他方、韓国では 2005 年の第 6 回調査では、「一部あるいは全面的にほかの人の世話や介護を受けている」という人のサービス利用割合は 9.5%で、今回の調査における割合（20%）の 2 分の 1 であった。韓国では、自立度に支障のある人の介護サービスの利用がこの 5 年間でかなり進展したことが示されたといえよう。

図 7-35 生活自立度と福祉サービスの利用

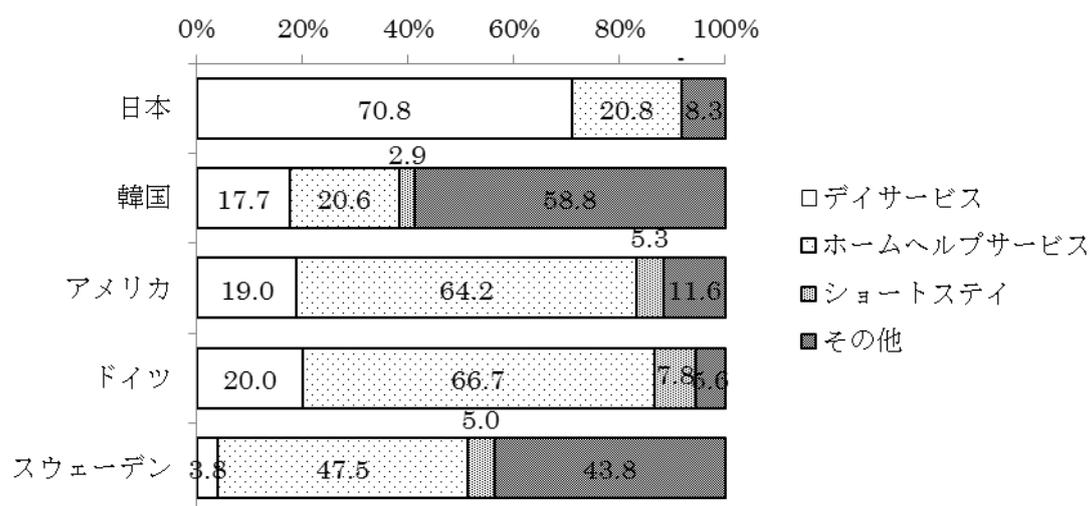


2) 利用サービスの種類 (図 7-36)

主にどのような種類の在宅・通所サービスを利用しているかについて、「デイサービス」「ホームヘルプサービス」「その他」の選択肢を用いて質問した。その結果をみると、国によって主に利用されているサービスの種類に差がみられた。日本ではサービス利用者のうちデイサービスを主に使っている人の割合(70.8%)がホームヘルプサービスを主に使っている人の割合(20.8%)と比べてかなり高かった。他方、アメリカとドイツの2カ国では、ホームヘルプサービスを主に利用している人の割合がそれぞれ64.2%、66.7%で、デイサービスを主に利用している割合(アメリカは19.0%、ドイツは20.0%)よりも高かった。韓国とスウェーデンは「その他」の割合が高いため、単純な比較ができないが、デイサービスとホームヘルプが韓国では17.7%、20.6%、スウェーデンでは3.8%と47.5%であることから、韓国は日本に、スウェーデンではアメリカとドイツに近い特徴をもっているとみることができる。

5年前の第6回調査と比較して、日本ではデイサービスの割合が20ポイント程度増加し、ホームヘルプの割合が逆に10ポイント程度低下した。韓国においては「その他」の割合が20ポイント以上増加し、他方、デイサービス、ホームヘルプがともに10ポイント程度減少した。アメリカ、ドイツの2カ国では大きな変化がみられなかった。スウェーデンは5年前の調査の対象国ではなかったため、比較ができなかった。

図 7-36 主に利用しているサービスの種類



4 医療や福祉サービスに不満があった場合の対応（表 7-4）

利用している医療や福祉サービスに不満がある場合、どのような対応をするかについて、利用していない人についても利用した場合を想定してもらい回答を得た。選択肢には「利用している医療や福祉サービスを提供している機関をかえる」「利用している医療や福祉サービスを提供している機関に直接苦情を申し立てる」など9項目を用意し、複数回答で回答を得た。

アメリカ、ドイツ、スウェーデンの3か国は、上位に位置する対応が共通していた。すなわち、「利用している医療や福祉サービスを提供している機関に直接苦情を申し立てる」が首位で、3カ国すべてでその割合は40%以上であった。次いで「利用している医療や福祉サービスを提供している機関をかえる」が2位であり、これも40%以上を占めていた。

「家族や友人に相談する」あるいは「苦情処理のための公的機関に申し立てる」が3位に位置していた。他方、日本と韓国では、アメリカ、ドイツ、スウェーデンの3か国では首位に位置していた「利用している医療や福祉サービスを提供している機関に直接苦情を申し立てる」の割合はいずれの国も20%程度と2位以内には入らず、韓国では「利用している医療や福祉サービスを提供している機関をかえる」が50.1%、日本では「家族や友人に相談する」が36.3%で首位であった。さらに、「わからない」が14~20%程度を占めているのも、アメリカ、ドイツ、スウェーデンの3カ国（いずれも5%程度）との相違として認められた。

以上の結果は、第6回調査とほぼ同様であり、5年間では変化が観察されなかった。

表 7-4 利用しているサービスに不満があった場合の対応

	日本	韓国	アメリカ	ドイツ	スウェーデン
利用している医療や福祉サービスを提供している機関をかえる	②26.8	①50.1	②52.8	②43.8	②41.6
利用している医療や福祉サービスを提供している機関に直接苦情を申し立てる	19.4	③20.5	①61.8	①45.7	①66.6
家族や友人に相談する	①36.3	②38.2	③38.1	③43.5	13.2
苦情処理のための公的機関に申し立てる	7.9	4.7	21.3	15.2	③14.5
苦情処理するための私的機関に申し立てる	3.6	2.4	14.2	10.3	4.0
弁護士を立てて訴訟を起こす	0.8	0.6	5.8	6.7	6.2
不満があっても我慢する	11.9	16.9	7.0	4.4	9.2
その他	0.7	0.0	1.6	0.4	1.3
わからない	②20.4	14.0	5.8	3.0	5.8

注) ①②③は各国別にみて回答の割合が上位の 1, 2, 3であることを意味している。